

ヒューマンケア学部 鍼灸学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下 CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。

【教育方法】

教養科目では、社会人・医療人として求められる教養を身につけるための科目に加えて、国際性を養うための語学や情報リテラシー・データサイエンス・AIに関連する科目も開講しています。専門基礎科目・専門科目では、基礎・臨床医学と東洋医学の両面から、統合的に疾患を理解できるように系統的に学びます。また、鍼灸の技術を高めるだけでなく、患者さんの状態を適切に判断し、一人ひとりに合った治療を行い、その効果を客観的に評価する力を身につけるための実習を行います。

【教育の特色ある工夫】

- ・ 1年次の「臨床見学実習」では、実際に働くはり師・きゅう師の業務を見ることで、その仕事の内容や役割を知り、はり師・きゅう師の必要性や意義などを早期から学ぶことを目的としています。
- ・ 2、3年次の「形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「体表解剖学」では、身体の形態及び機能に関する知識の充実とともに、鍼灸臨床において重要となる生体観察能力の向上を目指して、系統講義と演習を段階的に行っています。
- ・ 「基礎鍼灸セラピー実習」「鍼灸実習Ⅱ」及び「臨床鍼灸実習Ⅰ」では、鍼灸実習室に設置された実習用カメラを用いて、学生が鍼灸施術の様子を細部まで確認することができ、鍼の刺入方向や深度を的確に行えるよう指導しています。
- ・ 4年次の「臨床鍼灸総合実習」では、鍼灸臨床能力を修得するための診療参加型臨床実習を本学の附属臨床施設で実施しています。問診や身体所見の取り方、カルテ記載などを通して鍼灸診療の流れを学びます。また、実地臨床の体験を通じて、患者の心身の状態を総合的・客観的に捉える病態把握力と、適切な治療・評価につなげる臨床推論力を養います。
- ・ 「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」では、主体性をもって他の学生と協働しながら研究課題に取り組んで思考力・判断力を養い、客観的根拠に基づいて自らの考えをまとめ相手に伝えるプレゼンテーション能力を修得するように、ゼミナール形式によって指導しています。